

まちづくり交付金 フォローアップ報告書  
海峡パノラマ地区

平成23年6月

山口県下関市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	観光客数(下関駅地区)	人/年	83,000	83,000	120,173	確定 見込み ●	○	あり なし	114,808	H22年7月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	人工地盤舗石改修、歓迎塔整備、竹崎公園の整備により都市景観の向上が図られ、ライトアップ整備との相乗効果により観光客のイメージアップにもつながり、観光客数の減少を抑制した。
指標2	観光客数(唐戸地区)	人/年	3,141,000	2,500,000	2,725,317	確定 見込み ●	○	あり なし	3,056,891	H22年7月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	下関駅地区の都市景観の向上、唐戸地区のライトアップ整備、火の山地区の観光ルート確立など広域的な観光拠点整備により観光客が定着し、減少傾向に歯止めをかけることができた。
指標3	観光客数(火の山地区)	人/年	248,000	320,000	479,853	確定 見込み ●	○	あり なし	556,189	H22年7月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	火の山の麓から山頂までの間にみもすそ川公園、ロープウェイ、火の山公園とそれぞれ魅力を創造することで、観光ルートを確立し、地区の魅力を強化したことにより観光客数の増加につながった。
指標4	観光客の満足度	%	79.1	85.0	84.8%	確定 見込み ●	△	あり ● なし	83.7%	H22年7月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	数値目標は達成できなかったが、満足度は向上している。
指標5	観光関連施設利用者数(海峡ビュー下関)	人/年	39,467	36,500	37,368	確定 見込み ●	○	あり なし	39,308	H22年7月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	火の山の麓から山頂までの間にみもすそ川公園、ロープウェイ、火の山公園とそれぞれ魅力を創造することで観光ルートを確立し、地区の魅力を強化することで観光客が増加し、利用者数の減少抑制につながった。
指標6	公民館・文化ホールの利用者数	人/年	103,000	200,000	250,239	確定 見込み ●	○	あり なし	214,188	H23年5月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	利用者の意見を最大限に反映した各種ホールや公民館機能について利用者のニーズに最大限配慮した諸室を整備することで、利用者の利用意欲、意識及び利便性が向上するとともに、併設の図書館を利用する市民との交流、事業やイベントの共催等を通じて、互いに連携して、その相乗効果により利用者の増大につながった。
指標7	市民活動支援センターの利用者数	人/年	311	7,000	18,764	確定 見込み ●	○	あり なし	23,587	H22年7月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	既存施設を交通利便性に富む駅前へと移転拡充したことや、ワークショップにより市民の要望等を取り入れ、利用者の立場から利用しやすくなるセンター整備を行ったことが利用者の増大につながった。
指標8	夜間観光者数	人/年	1,397	2,300	3,171	確定 見込み ●	○	あり なし	2,938	H22年7月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	夜間景観整備事業によるライトアップ整備とあわせて、新日本夜景百選にも選ばれている火の山の観光整備やみもすそ川公園のモニュメントライトアップにより、新たな回遊性の高い観光ルートが生まれ、夜間観光客数の増加につながった。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	観光関連施設利用者数 (海峡ビューしものせき+火の山ユースホステル)	人/年	42,781	/	43,060	確定 見込み ●	/	/	44,037	H22年7月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	火の山の麓から山頂までの間にもみもすそ川公園、ロープウェイ、火の山公園とそれぞれ魅力を創造することで観光ルートを確立し、地区の魅力を強化したことで観光客が増加し、利用者数の減少抑制につながった。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

## 2. 今後のまちづくり方策の検証

### 様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	・地域交流センターの整備により活発化した市民の交流の持続	ホールを中心とした自主事業、諸室の利用率向上のための登録団体制度の導入などの展開。	自主事業の参加者や、任意団体によるホール・諸室の利用申込み者が、図書館の利用者と相互に影響を受け、施設利用向上に繋がっている。	
	・ライトアップ整備によって増えた夜間観光者の定着	ライトアップ整備について、市ホームページを活用して広報周知を図った。	観光団体が作成する夜景観光バスのパンフレットリニューアルや、タウン情報誌への記事掲載等、民間の夜間観光広報に波及した。	
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	施設の整備・更新	下関駅前広場の再整備を実施中。	現在、整備途中(H21~H25)であるため、現時点において結果が現れていない。	
	各観光施設への適切な案内・誘導	観光施設が集中する唐戸地区において、現況課題を把握するため交通利用実態調査を実施した。また、懇話会を設置し、駐車場案内情報の高度化等の駐車場利用円滑化メニューの検討を行った。	平成22年5月に駐車場への円滑な誘導等の可能性検証のため、社会実験を実施。誘導先の唐戸地区から離れた駐車場の利用状況が改善され、誘導に一定の効果が認められた。	
	下関駅地区の観光拠点整備	下関駅地区の観光拠点の一つである国際通り(グリーンモール商店街)において、通りの特徴である「下関のリトル釜山」という個性をさらに発展させるため、ハンゲル看板の設置や、物産館などの拠点施設を整備した。	駅前商店街内の回遊性が高まり、にぎわいを創出するなどの一定の効果が認められた。	

事後評価シート 添付様式5-③から転記

### 様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

# 都市再生整備計画(精算報告)

かいきょう  
海峡パノラマ地区

やまぐち しものせきし  
山口県 下関市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山口県	市町村名	下関市	地区名	海峡パノラマ地区	面積	163.0 ha
-------	-----	------	-----	-----	----------	----	----------

計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

大目標: 交流拠点の整備等による、市民及び来訪者(観光客)がともに楽しめるまちづくり

目標1	下関駅前の修景整備や中心市街地に点在する歴史的・建築的に重要な建造物等へのライトアップにより、魅力ある景観を創出する
目標2	海峡あいランド21地区において都市再生のための交流施設の整備により、地域の交流人口の拡大を図る
目標3	瀬戸内海国立公園に位置する火の山周辺の歴史的・自然的な資源を活かした観光拠点の整備等により、来訪者(観光客)の増加を図る

目標設定の根拠

・本地区は、下関市の中心市街地部に位置し、本州の最西端に位置する地理的条件から、古くから交通の要衝として東アジアなどとの交易・文化交流の中継点として発展を遂げ、また、源平合戦や明治維新、日清講和条約等の舞台として歴史に登場するなど、極めてふとこの深い歴史、文化資源を有しているが、近年の人口の減少や景気の低迷とともに地場産業の多くが伸び悩み、都市の活力が低下している。

・JR下関駅から唐戸を経て火の山に至る関門海峡沿いの地域は、第四次下関市総合計画においても拠点観光ゾーンとして位置付けられており、観光施設整備と都市環境整備を重点的に推進するとされている。

・JR下関駅は、山陽方面、山陰方面、九州方面の結節点であり、観光の観点からも主要な公共交通施設と位置付けられ、下関市の玄関口としてふさわしい都市機能と快適で魅力あるまちづくりを目指して平成7年度に人工地盤等が整備された。

・市の中心市街地である本地区には歴史的・建築的に重要な建造物等が多く集積しており、昼間でも十分魅力的ではあるが夜間については活用されていない。

・海峡あいランド21地区は、旧国鉄細江貨物ヤード跡地を活用し、土地区画整理事業が実施された地区であり、新たな中心市街地の形成に向けて、商業、業務、コンベンション、情報サービス等の施設の集積・立地を誘導すべき地区とされている。

・火の山公園は瀬戸内海国立公園に含まれ、山頂からの眺望は瀬戸内海、日本海を一望できる絶好のロケーションにあり、下関市のシンボルとして親しまれているが、パークウェイ、ロープウェイともに利用者は減少しており、特にロープウェイは平成15年度からは運休状態にある。一方改築した新国民宿舎海峡ビュー下関は開館以来好評を博しており、利用客の減少に歯止めをかけている。

・あるかぼ〜とを中心とした唐戸周辺地区は若者も集客できる観光拠点として、新しものせき水族館(海響館)や新唐戸市場、さらに民間商業施設であるカモンワーフなど、交流の核となる施設のオープンや、NHK大河ドラマ(武蔵〜新撰組〜義経)の影響などにより、交流人口は若干の回復基調にある。

・平成14年に都市再生本部において決定された「全国都市再生のための緊急措置〜稚内から石垣まで〜」の取り組みの中で、全国各地の先導的な都市再生活動を国が支援する「全国都市再生モデル調査」により、平成15年度に「下関海峡パノラマ構想」を作成しており、これを実現するためにまちづくり交付金による事業を計画している。

課題

積極的な都市観光の推進や、文化交流拠点の整備により多様で活発な交流を実現し、都市の活性を促す必要がある。

・JR下関駅周辺は、本市の顔としてのシンボル性の強化が求められており、観光地としての都市のイメージや雰囲気を出すことが重要であるため、美しい景観の整備等を行う必要がある。

・市のイメージアップのため、下関らしさを表現した個性ある景観を創出する必要がある。

・海峡あいランド21地区については、市の中心部にふさわしい、市民と行政のシンボリック施設を整備し、市民等の活発な交流を促す必要がある。

・火の山地区の来訪者は伸び悩んでおり、歴史、自然を活かした観光拠点の整備やソフト施策等により、観光スポットとしての魅力の強化を図り、来訪者(観光客)の増加を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

関門海峡などの豊かな自然・歴史・文化を活かし、交流人口の増加を図る魅力ある観光・文化地域

・第四次下関市総合計画(H13. 3策定/目標年次H22)  
市の主要な観光導線として位置付けており、観光施設整備と都市環境整備を重点的に推進するとしている。

・都市計画区域マスタープラン(H16. 3策定/目標年次H32)  
市の中心部として、歴史的背景により形成された都市景観、賑わい・回遊性のある基盤整備及び空間づくりによる活性化を図るとしている。

・下関市都市計画マスタープラン(H11. 3策定/目標年次H27)  
市の中心的都市機能の役割を担う地区として位置付けており、商業・業務・文化などの都市機能の集積、ウォーターフロント部の憩いの場の創出、海峡や山並みの景観眺望スポットの整備などを図るとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
観光客数(下関駅地区)	人/年	「海峡ゆめタワー」の入場者数等で推計した観光客数	公共交通施設を利用した観光客に対するイメージアップ等を踏まえつつ、減少を基準年の横ばいに抑える。	83,000	H15	83,000	H20
〃 (唐戸地区)	人/年	「海響館」「唐戸市場」「カモンワーフ」の3施設の入場者数等で推計した観光客数	下関駅〜火の山間の広域的な観光拠点整備の影響により、大河ドラマ「武蔵」放映後の減少を考慮して、減少を基準年の約20パーセントに抑える	3,141,000	H15	2,500,000	H20
〃 (火の山地区)	人/年	「パークウェイ」の通行車両台数等で推計した観光客数	新たな観光拠点の整備等による効果を見込み、当面3割程度の来訪者の増加を目指す	248,000	H15	320,000	H20
観光客の満足度	%	市での経年的観光客へのアンケート調査による地区の満足度	地区の来訪者の85%程度が満足する環境を目指す	79.1	H15	85.0	H20
観光関連施設利用者数(海峡ビュー下関)	人/年	宿泊及び休憩の年間利用者数	火の山地区周辺の整備による効果を見込み、利用者の減少を約8%に抑制する。	39,467	H15	36,500	H20
公民館・文化ホールの利用者数	人/年	公民館・文化ホールを利用した人の年間延べ人数	文化ホールの稼働率を年間150日(1日2回)とし、座席占有率を50%で推計、また、公民館の利用者を基準年の2倍と見込んで、全体で基準年の2倍弱の利用者数の増加を目指す	103,000	H15	200,000	H20
市民活動支援センターの利用者数	人/年	市民活動支援センターを利用した人の年間延べ人数	施設開館日数を年間350日とし、1日平均20人程度の利用者を見込む。中心市街地であることから利用者数の増加を目指す	311	H16	7,000	H20
夜間観光者数	人/年	『関門海峡夜景観光バス』の乗車人数から類推	ライトアップ整備により900名の夜間観光者数の増加を目指す。	1,397	H15	2,300	H20

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(魅力ある都市景観の形成による観光対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客誘導の玄関口を形成するために、駅前の人工地盤の景観整備及び歓迎塔の設置を行う。</li> <li>駅周辺の都市景観の向上を図り、歩行者や公園利用者がより快適かつ安全に楽しめるよう竹崎公園の整備を行う。</li> <li>来訪者等の夜間の楽しみを充実させるため、地区内に散在する歴史的建造物等をライトアップし、光の回廊を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前景観形成事業(基幹事業／高質空間形成施設:緑化施設等)</li> <li>駅前賑わい創出事業(基幹事業／地域生活基盤施設:情報板)</li> <li>公園整備事業(基幹事業／公園)</li> <li>夜間景観形成事業(基幹事業／高質空間形成施設:緑化施設等)</li> </ul>
<p>整備方針2(文化交流の拡大、市民活動支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市における活気ある文化交流の推進のために、市民と行政のシンボルとなる施設を整備する。</li> <li>市民活動の促進のため、市民や市民活動団体の交流・活動の拠点となる施設を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育施設等複合施設整備(基幹事業／高次都市施設:地域交流センター)(提案事業:図書館)</li> <li>市民活動支援センター整備(基幹事業／高次都市施設:地域交流センター)</li> </ul>
<p>整備方針3(歴史的・自然的観光資源の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光スポットとしての滞在魅力の強化を図るために、下関市のシンボルである火の山公園の整備を行う。</li> <li>NHK大河ドラマの影響で歴史的背景が再認識されている御裳川地区で、来訪者の期待に添えるようモニュメントの設置を行う。</li> <li>来訪者の快適性の向上に資する施策を模索するため、公共施設空間を活用したオープンカフェの開催を実施する。</li> <li>休止中のロープウェイの今後の運営の方向性を探るため、部分的な運転再開により、来訪者の利便性及び利用状況を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園整備事業(基幹事業／公園)</li> <li>モニュメント設置(基幹事業／高質空間形成施設:緑化施設等)</li> <li>ロープウェイ運転再開実験(提案事業)</li> <li>オープンカフェ開設実験(提案事業)</li> </ul>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JR下関駅から唐戸地区及び火の山山頂を結ぶバス路線について、各地区の回遊性を高めるために、現在の運行便数を増便できないか調整中。</li> <li>市内宿泊者を対象に、海峡沿いや火の山等の夜景観賞を目的とした観光バスの運行が実施されている。</li> <li>市民活動支援センターの整備について、市民参加のワークショップで検討。</li> </ul>	

